

慶應義塾普通部保健室・中等部 医務室における内科的疾患及び 外傷の発生状況に関する検討

南里清一郎* 木村 慶子*
城崎 慶治* 木村キミエ* 佐村 昭子**

学校保健の役割は、保健教育と保健安全管理にある。学校内で発生した内科的疾患及び外傷の発生状況を把握する事は、保健室・医務室における救急看護を円滑にし、病気事故対策、学校内の環境安全対策、保健教育の一助となる。我々は、このたび中学校の保健室、医務室における内科的疾患及び外傷の記録を集計し、検討を加えたので、ここに報告する。

対象及び方法

対象は、慶應義塾普通部・中等部で、普通部は、神奈川県にある男子校で、在校生数721名、中等部は、東京都にある男女共学校で、在校生数718名（男子477名、女子241名）である。昭和57年4月より昭和58年3月までの間の登校日において、保健室・医務室を利用した場合、表1、表2に示すような、内科記録及び外傷記録に分け、原則として、受診

した生徒に記入させた。普通部保健室には、看護婦、中等部医務室には、養護教諭が常駐し、両校ともに、週4日は、校医(小児科医)も勤務しており、受診者の診断及び記入事項のチェックを行った。

集計結果

内科受診者は、普通部482名、中等部881名（男子431名、女子450名）で、両校合計の受診者は、1,363名であった。表3に示す如く、症状は、頭痛20.8%、腹痛16.4%、気分不良13.8%以下、咽頭痛、熱・さむけ、嘔気・嘔吐の順であった。来た時間は、休み時間57.3%、授業中18.7%以下、放課後、始業前の順であった。処置は、休養なし79.8%、休養あり20.2%であった。投薬あり61.8%、投薬なし38.2%であった。早退させた者は、54名(4.0%)であった。学校より医療機関を受診させた者は、11名(0.8%)で、その内訳は、

* 慶應義塾大学保健管理センター

** 慶應義塾中等部

表 3 内科的疾患による受診者 (1363名)

症 状	頭痛 20.8%	腹痛 16.4	気分不良 13.8	咽頭痛 10.9	熱さむけ 7.0	嘔気嘔吐 6.8	その他 24.3
来た時間	休 み 時 間 57.3%		授業中 18.7	放課後 12.5	始業前 6.3	その他 5.2	
処 置	休 業 な し 79.8%					休業あり 20.2	
	投 薬 あり 61.8%			投 薬 な し 38.2			

早退 54名(4.0%)
医療機関受診者 11名(0.8%)

表 4 内科的疾患による受診者の症状の男女差

普通部(男) 482名	頭痛 22.0%	気分不良 12.9	咽頭痛 12.0	腹痛 11.0	嘔気嘔吐 9.5	その他 32.6
中等部(男) 431名	頭痛 20.9%	腹痛 17.6	気分不良 13.9	熱さむけ 9.5	嘔気嘔吐 7.7	その他 30.4
中等部(女) 450名	腹痛 21.1%	頭痛 19.1	気分不良 14.9	咽頭痛 13.8	熱さむけ 4.9	その他 26.2

表 5 症状と投薬

頭 痛 283名	投 薬 あり 60.1%	投薬なし 39.9
腹 痛 224名	投 薬 あり 89.3%	
気分不良 188名	投薬あり 30.3%	投薬なし 69.7
咽頭痛 148名	投 薬 あり 66.2%	投薬なし 33.8

表 6 休養・早退と症状の関係

休 養 275名	気分不良 35.3%	腹痛 19.3	頭痛 16.4	嘔気嘔吐 13.1	その他 15.9
早 退 54名	頭 痛 29.6%	熱さむけ 25.9	気分不良 16.7	腹痛 9.3	その他 18.5

表 7 外傷による受診者 (2593名)

外傷の種類	傷 35.7%	打撲 17.8	つき指 13.9	捻挫 8.6	筋肉痛 6.7	その他 17.3
受傷部位	足 30.1%	指 29.5	手 23.7	その他 16.7		
受傷場所	体育館 27.4%	教室 17.3	グラウンド 14.2	校庭 12.2	學 校 1.1	その他 24.6
受傷時間	休み時間 26.4%	体育 19.2	クラブ活動 11.9	放課後 11.1	授業中 8.2	その他 23.2

医療機関受診者 159名(6.1%)

表 8 受診者の外傷の種類男女差

普通部(男) 1291名	傷 38.3%	打撲 17.1	つき指 14.7	捻挫 8.7	筋肉痛 5.3	その他 15.9
中等部(男) 803名	傷 38.0%	打撲 20.5	つき指 12.8	捻挫 7.7	筋肉痛 6.8	その他 14.2
中等部(女) 499名	傷 25.3%	打撲 15.0	つき指 13.4	筋肉痛 10.0	捻挫 9.6	その他 26.7

蕁麻疹4名, 風疹1名, 手足口病1名, 胃腸炎3名, 外耳炎1名, 頬部痛1名であった。表4に示す如く, 症状における学校差, 男女差を頭痛, 腹痛でみると, 普通部男子では, 明らかに頭痛が腹痛より多く, 中等部男子では, 頭痛が腹痛よりやや多く, 中等部女子では, 腹痛が頭痛よりやや多かった。表5に症

慶應義塾普通部保健室・中等部医務室における内科的疾患及び外傷の発生状況に関する検討

表 9 外傷による医療機関受診者

外傷の種類	骨折		打撲		創傷		捻挫		その他 2.5
	39.0%		27.0		16.4		15.1		
受傷部位	足		手		指		目・顔・頭・歯		体部 6.3
	27.7%		18.9		15.7		31.4		
受傷場所	体育館		グラウンド		教室		校庭		廊下 5.0
	32.1%		22.0		14.5		9.4		その他 17.0
受傷時間	体育		クラブ活動		休み時間		放課後		その他 13.9
	28.3%		27.0		23.3		7.5		

159名 (1年 52名) (男子 132名)
 (2年 48名) (女子 27名)
 (3年 59名)

状と投薬状況を示した。腹痛では、投薬する頻度は高く、気分不良では、その頻度は低かった。表6に休養、早退と症状との関係を示した。休養を要する症状としては、気分不良が最も多く、早退の理由としては、頭痛、熱・さむげが多かった。次に、外傷による受診者は、普通部1,291名、中等部1,302名(男子803名、女子499名)であった。表7に示す如く、外傷の種類は、挫傷・切傷・擦過傷等の傷が35.7%、打撲17.8%、つき指13.9%以下、捻挫、筋肉痛の順であった。受傷部位は、足30.1%、指29.5%、手23.7%の順であった。受傷場所は、体育館27.4%、教室17.3%、グラウンド14.2%以下、校庭、廊下の順であった。受傷時間は、休み時間26.4%、体育19.2%、クラブ活動11.9%以下、放課後、授業中の順であった。学校より医療機関を受診させた者は、159名(6.1%)であった。表8に示す如く、外傷の種類男女差としては、男子において、傷が多かった。受傷部位・場所・時間等には、男女差はなかった。次に、学年

図 1 内科的疾患による学年別、月別受診者数

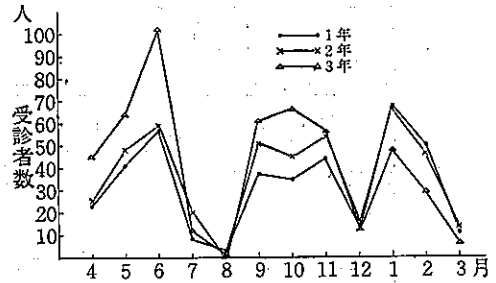


図 2 外傷による学年別、月別受診者数

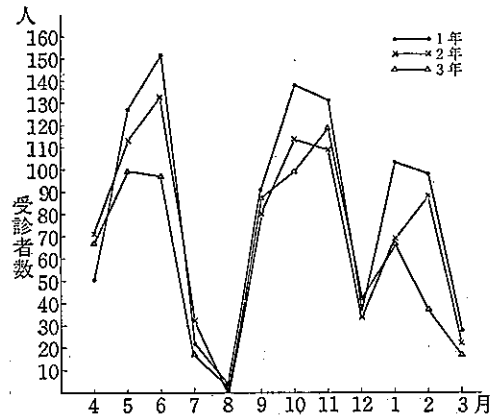
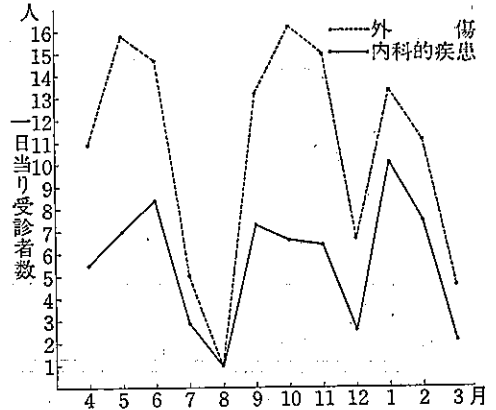


図 3 内科的疾患及び外傷による月別受診者数



別、月別受診者数を、図1、図2に示した。内科では、3年生の受診者が多く、外傷では、1年生の受診者が多かった。図3に示す如く、月別1日当たりの受診者数は、内科では、1月、6月、2月、9月の順であった。

図4 内科的疾患及び外傷による曜日別受診者数

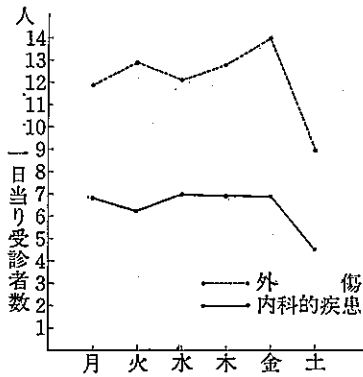


図7 外傷による曜日別医療機関受診者数

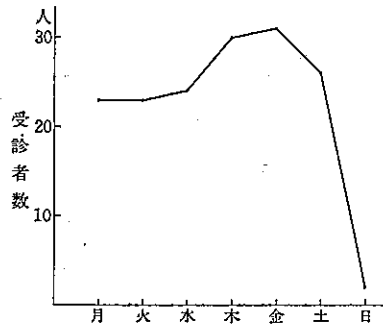


図5 内科的疾患及び外傷による天候別受診者数

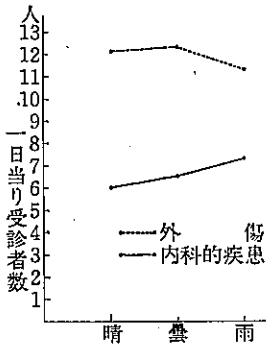
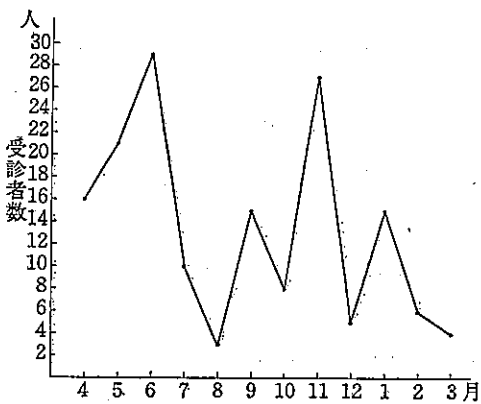


図6 外傷による月別医療機関受診者数



外傷では、10月、5月、11月、6月の順であった。図4に示す如く、曜日別1日当りの受診者数は、内科では、水、木、金の順であった。外傷では、金、火、木の順であった。図5に示す如く、天候別1日当りの受診者数は、内科は、雨の日にやや多く、外傷は、雨の日にやや少い傾向が認められた。次に、外傷による医療機関受診者の詳細を、表9に示した。種類は、骨折39.0%、打撲27.0%、創傷(縫合を必要とするもの)16.4%、捻挫15.1%の順であった。部位は、足27.7%、手18.9%、指15.7%、すなわち四肢62.3%、目・顔・頭・歯、いわゆる頭部31.4%、体部6.3%であった。場所は、体育館32.1%、グラウンド22.0%、教室14.5%、校庭9.4%、廊下5.0%であった。時間は、体育28.3%、クラブ活動27.0%、休み時間23.3%、放課後7.5%であった。図6に示す如く、月別では、6月、11月に多く、図7に示す如く、曜日別では、木、金、土に多かった。骨折者62名の詳細を表10に示した。上肢・手指35名(56.4%)、下肢・足趾20名(32.3%)、頭部(鼻骨、頬骨)2名(3.2%)、体部(鎖骨、骨盤骨)5名(8.1%)であった。骨折部位の左右をみると、右36例、左25例であった。下肢・足趾において、

表 10 骨折部位

部位		上肢	手指	下肢	足趾	鼻骨	頬骨	鎖骨	骨盤骨	計	
普通部	男	右	2	6	5	1	0	0	3	0	17
		左	5	4	3	0		1	1	1	15
中等部	男	右	5	1	3	2	1	0	0	0	11
		左	4	2	1	0		0	0	0	7
	女	右	3	1	2	2	0	0	0	0	8
		左	0	2	0	1		0	0	0	3
計	右	10	8	10	5	1	0	3	0	36	
	左	9	8	4	1		1	1	1	25	

(鼻骨は左右の計に含まず)

表 11 骨折と運動の関係

バスケットボール	10名
ラグビー	10名
野球	6名
サッカー	5名
バレーボール	各2名
柔道	
テニス	各1名
バトミントン	
山岳	各1名
水泳	
ホッケー	各1名
ソフトボール	
弓	

右15例、左5例と右の方が多かった。骨折と運動との関係を、表11に示した。バスケットボール、ラグビーが各10名と最も多く、以下、野球、サッカーの順であった。

考 察

内科的疾患においては、中等部は、普通部に比し、受診者が多く、特に、女子における受診者が多かった。その理由としては、女子は、月経に伴う腹痛・頭痛があり、又、甘え、それに集団で受診する傾向があった。来た時間の約20%が授業中で、休養した者約20%と一致していた。受診者の約60%に投薬したが、これは、校医(小児科医)が、週4日勤務しており、又、私立の学校のため遠方より通学している者が多いためと考えられる。投薬に際しては、自覚症状よりも他覚的所見である発熱・顔色・脈拍・血圧・嘔吐・下痢・圧痛・咽頭発赤等に重きを置いた。その結果、腹痛では、投薬の頻度が高く、気分不

良では、その頻度が低かった。休養させた者の約3分の1は、気分不良である。気分不良は、感冒・胃腸炎の初期症状、及び、脳貧血のことが多いが、中に、睡眠不足、怠けのこともあり注意を要する。早退させた者の大半は、発熱に伴う諸症状のあるもので、投薬、休養により症状を軽減させ帰宅させた。医療機関を受診させた者は、発熱・発疹・下痢・嘔吐等で、早期に治療を必要とする者であった。受診者は、感冒の多い1月、2月、梅雨期の6月、及び、夏休みあけの9月、又、週末、雨の日に多い傾向が認められた。外傷による受診者は、両校、男女とも差がなかった。医療機関を受診させた外傷では、骨折が、62名と最も多かったが、その中には、手指、足趾22名の比較的軽い者も含まれていた。受傷部位において、頭部の比率が、全国統計より多いのは、目の外傷に関しては、医療機関を受診させる事が多かったためかと考えられる。受傷場所は、体育館、グラウンドが多く、受傷時間は、体育、クラブ活動、特

に、バスケットボール、ラグビーが多かった。バスケットボール等の体育館を使うスポーツ、及び、グラウンドにおけるラグビー等の過激なスポーツの指導には、十分な考慮が必要である。又、スポーツのさかんな、6月、11月、晴の日に外傷が多いのは、当然かもしれないが、週末に多い点は、十分注意を要する点である。

まとめ

慶應義塾普通部保健室、中等部医務室における内科的疾患及び外傷の記録を集計し、以下の結果を得た。

- 1)内科的疾患では、症状は、頭痛、腹痛、気分不良の順で、外傷では、傷(挫傷、切傷、擦過傷等)、打撲、つき指の順であった。
- 2)内科的疾患では、女子の受診者が多かったが、外傷では、男女差はなかった。
- 3)外傷による医療機関受診者は、159名(6.1

%)で、骨折、打撲、創傷の順であった。

4)骨折は、62名(2.4%)で、部位は、上肢、手指35名(56.4%)、下肢、足趾20名(32.3%)、頭部(鼻骨、頬骨)2名(3.2%)、体部(鎖骨、骨盤骨)5名(8.1%)であった。

5)骨折の原因となる運動は、バスケットボール、ラグビー、野球、サッカーの順であった。

6)内科受診者は、感冒の多い1月、2月、梅雨期の6月、及び、夏休みあけの9月、それに週末、雨の日に多かった。

7)外傷による受診者は、運動のさかんな6月、11月、週末、雨の日に少なかった。

なお、本論文の要旨は、第87回日本小児科学会(昭和59年5月、宇都宮市)において発表した。

文 献

- 1) 日本学校保健会編：学校保健の動向 昭和58年度版. p. 69, 1983.